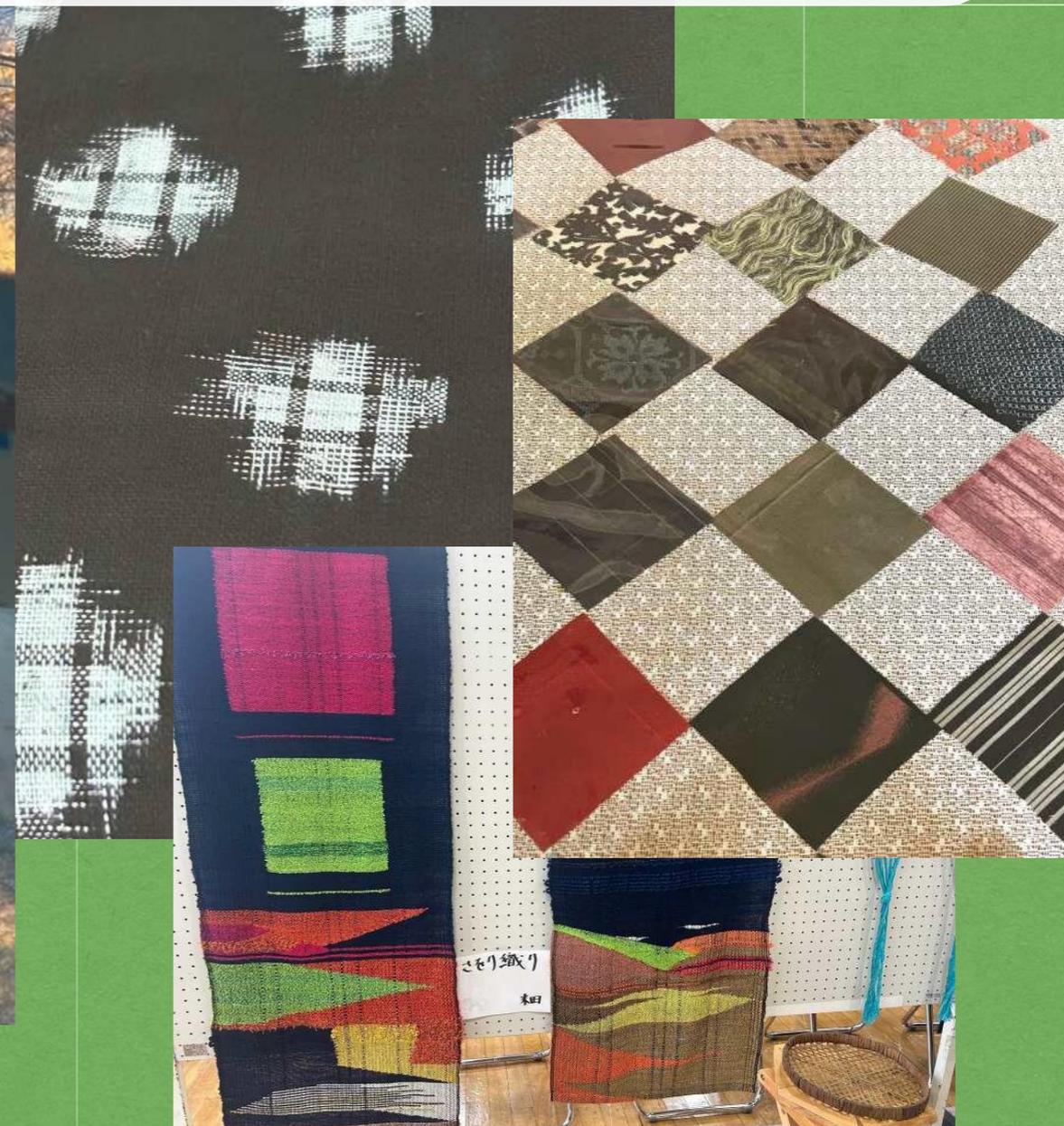
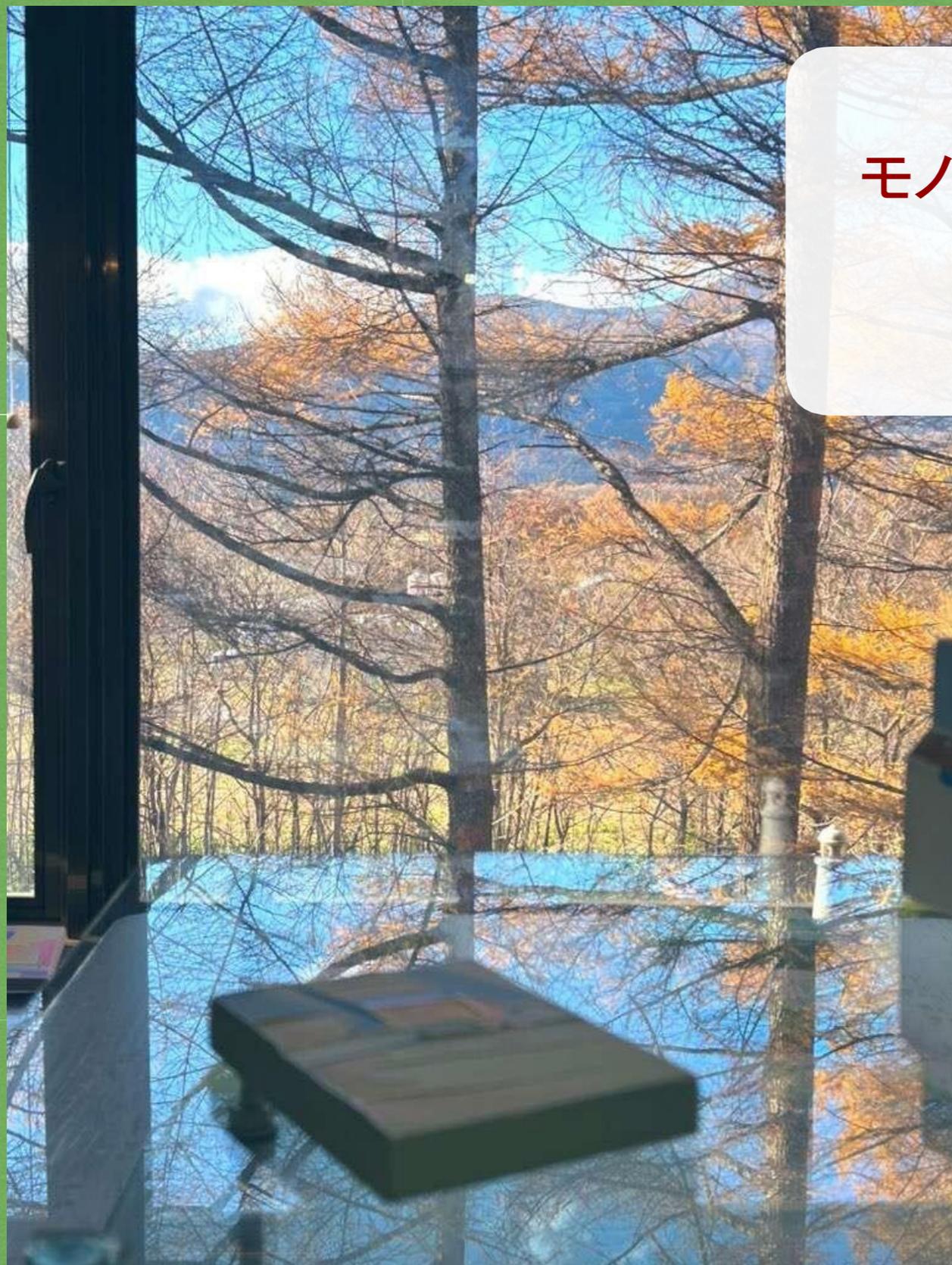


モノづくりをする人が集まる町

雫石の暮らし





田中 愛実(たなか まなみ)

1988年 秋田県能代市生まれ → 釜石市(2歳まで)

→ 遠野市(4歳まで) → 雫石町・御明神地区橋場(7歳まで)

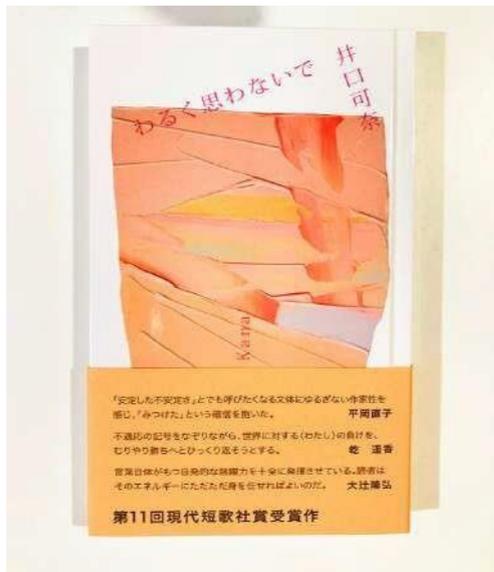
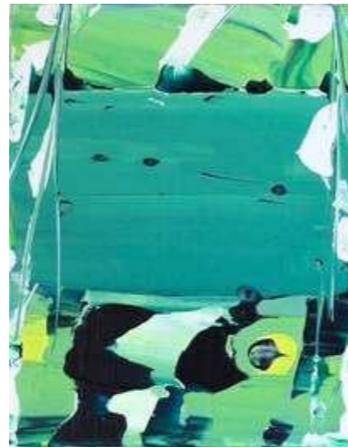
→ 遠野市(18歳まで) → 上京

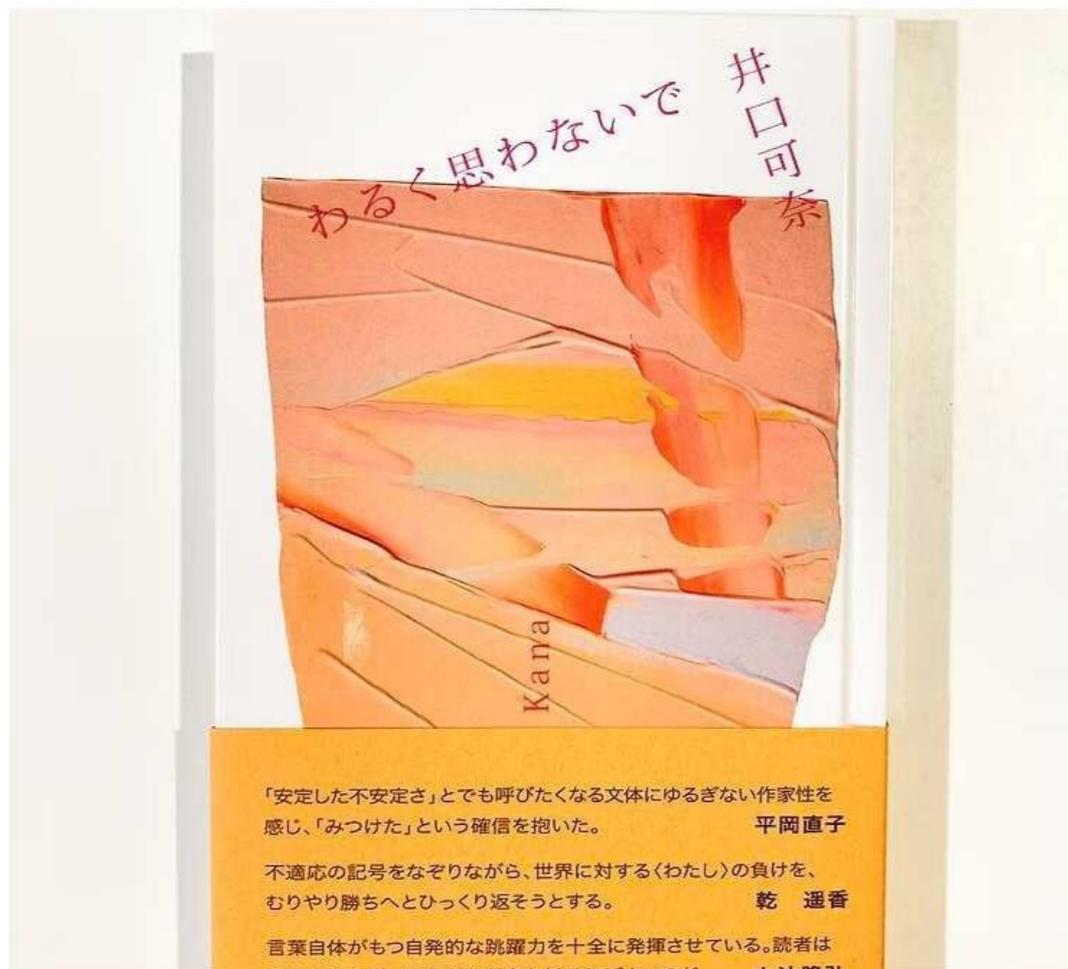
幼少期は県内転勤族・岩手県遠野市出身

# 美術・絵画制作「民 佐穂(みん さほ)」の活動

2015年頃から使用している屋号。制作は独学ではじめる。美術作家も美大出身から一般大学～独学までルーツはさまざま。  
※友人が自分につけた新しいニックネームを屋号に使用(由来は不明だが民芸や民俗・民話などルーツにも関わる名でもある)

## これまでの絵画制作物や装画使用/デザイン仕事





第11回現代短歌社賞受賞

## 井口可奈歌集『わるく思わないで』

「Sun down」装画 使用

初版：2024年4月29日

発行：現代短歌社

発売：三本木書院

<https://gendaitanka.thebase.in/items/85788889>



武庫川女子大学生生活美学研究所 第32回秋季シンポジウム

## 「家」をめぐる思考と実践

「三角屋根の町なみ」使用

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~seibiken/>

2022年12月10日（土）オンライン開催



月刊文芸誌 群像 2021年3月号 掲載

カラー表紙「135°」

モノクロ総扉ページ 左「90°」右「75°」

全て2020年制作

群像バックナンバー

<http://gunzo.kodansha.co.jp/backnumber>



映画『あの子の夢を水に流して』ポスター/チラシ

「315°」使用

2021年制作

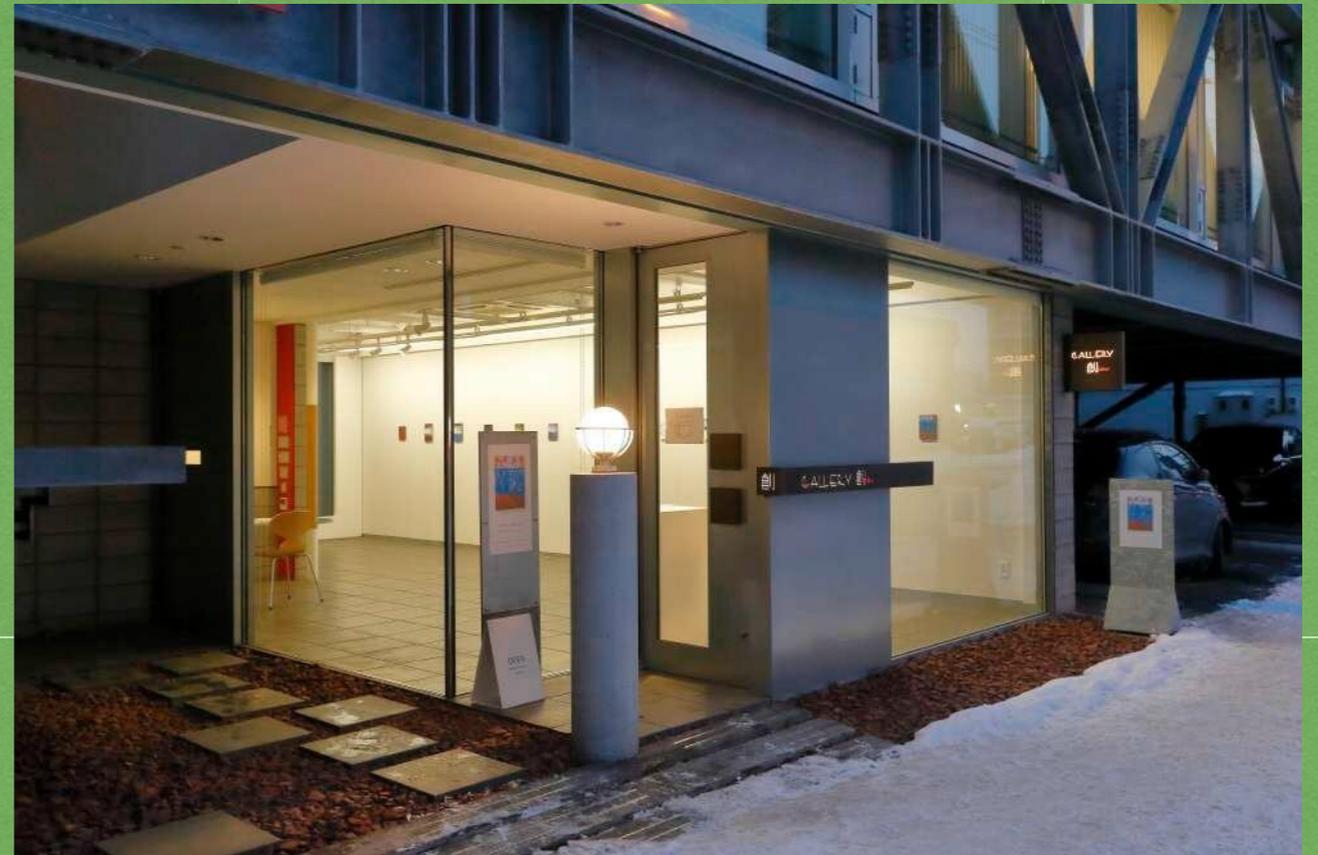
映画「あの子の夢を水に流して」公式サイト

<https://anoko-no-yume.com/>

2022年12月熊本先行公開



個展「Finders Calendars」ギャラリー創(札幌)2021年



「暮らしとアート展」  
Cyg art gallery(盛岡)2025年



## デザインの学生時代(18~22歳)

(学校法人桑沢デザイン研究所卒業→セツ・モードセミナー中退)

この頃からデザインは向いていないと自覚、在学中から絵画制作やギャラリー展示巡りなど美術方面に関心があった。在学中から企画展など友人と自主開催。

## カフェ・古本屋・地図会社で働きながら絵画制作や本づくり(23~25歳)

学生卒業後まもなく、東日本大震災を受け都市部と故郷の暮らしについて考え始める。

## 岩手県花巻市で介護の仕事(26~27歳)

いったん戻った岩手での暮らしの中で、制作(描くこと)の基盤を探すべく再上京。

## 古本屋・図書館で働きながら絵画制作・展覧会(27~29歳)

屋号「民佐穂」で活動をはじめ。

初めて自分の制作物(絵)が売れた経験をする。

(アーティストランスペースのメンバーとしても運営/活動に参加)

## パン屋・定食屋・古本屋などで働きながら絵画制作/依頼仕事・展覧会(30~36歳)

各地で展覧会を開催。コロナ禍は現地設営には行かず作品だけ会場に送ることが多かった。

2024年 秋～冬

しばらく仕事と制作・展覧会などの仕事を繰り返す生活から、制作拠点をルーツでもある岩手で探すことを目的に移住に向けて動いてみる。

- \* ふるさと回帰支援センターにオンライン相談。
- \* 岩手の中でも盛岡周辺や県央・内陸など希望の地域と気になる町を相談してみる。
- \* 雫石町の冬の移住ツアーをすすめられ参加。
- \* 転職+慣れない土地での物件探しは遠方からだとな交通費もかかり難航しそう。
- \* 地域おこし協力隊の制度を利用し単身Jターン。
- \* 夫は美術作家で現在東京に拠点/在住。

→町の景色・移住ガイドさんの丁寧な案内・少しの勇気で移住を決意。



2025年 4月下旬

東京都小平市から岩手県雫石町へ転居。

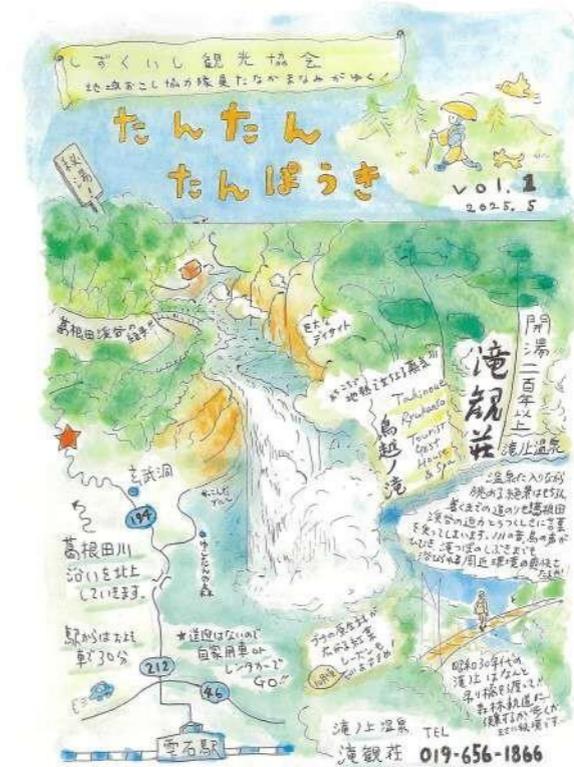
5月～ 雫石町 地域おこし協力隊 着任

(一社)しずくいし観光協会(地域DMO)の支援業務など



東北で唯一の経木職人 古川経木さん

雫石のお土産品でも好評



JR 雫石駅 1F 観光物産センター

雫石町観光物産センター(JR雫石駅1階)

陶芸や漆工芸・木工品・染物や織物など様々な作家の作品が販売されている岩手の伝統工芸や民芸品など



おりつめ木工



wood works  
kyala studio

雫石町 鶯宿温泉での企画展  
 「鶯宿レトロ百貨展  
 ～湯けむりと日常の記憶～」

2025/10/21～11/9



懐かしさに会いに、鶯宿へ

# 鶯宿レトロ百貨展

～湯けむりと日常の記憶～

2025年 10/21(火)～11/9(日)

会場：鶯宿温泉 ホテル鶯 ロビー壁面

入場料：無料

参加施設

- 1 鶯宿温泉 川長
- 2 温泉民宿 あげぼの荘
- 3 温泉民宿 栄弥
- 4 煙山商店
- 5 竹あかりの宿 加賀助
- 6 呑処ホーホケキョ
- 7 ホテル鶯
- 8 ホテル 徳栄苑
- 9 ホテル 森の風 鶯宿
- 10 餅工房むらかみ

OSYUKU HOT SPA OSYUKU HOT SPA

展示期間中に開催イベント

10/25(土) 10/26(日) 両日開催

温泉ソムリエと歩く 鶯宿温泉「湯の旅」

※展示方法  
 展示品は、展示期間中のロビー壁面に展示いたします。  
 展示品は、展示期間中のロビー壁面に展示いたします。  
 展示品は、展示期間中のロビー壁面に展示いたします。

お問い合わせ先：〒020-0024 雫石町 鶯宿温泉 下4-3  
 TEL: 028-652-0330 FAX: 028-652-0314

雫石の観光地や温泉施設を見ることができるので、ぜひご覧ください



## しずくいし観光協会

@しずくいし観光協会 · チャンネル登録者数 50人 · 37本の動画

このチャンネルの詳細 ...さらに表示

登録済み

動画 ショート 再生リスト

新しい順 人気の動画 古い順



【#温泉街】温泉ソムリエと歩く【鶯宿温泉】湯の旅 @雫石町 #岩手  
78 回視聴 · 13 日前



鶯宿温泉 ホテル鶯【#源泉かけ流し】  
185 回視聴 · 1 か月前



【ペンションさんりんしゃ】オーナー三輪さんのペンションストーリー【岩手高原ペン...  
69 回視聴 · 2 か月前



【#小岩井農場 まきば園】小岩井農場にひつじのショーがやってきた！  
659 回視聴 · 2 か月前



【2025年】雫石よしやれ祭【新生雫石町70周年記念】  
284 回視聴 · 3 か月前



御所ダム探検隊がゆく！【#ダムカレーと光のトンネル】  
495 回視聴 · 3 か月前



国見温泉 森山荘  
422 回視聴 · 4 か月前



雫石町内の乗り合いタクシー あねっこバスの使い方  
62 回視聴 · 4 か月前

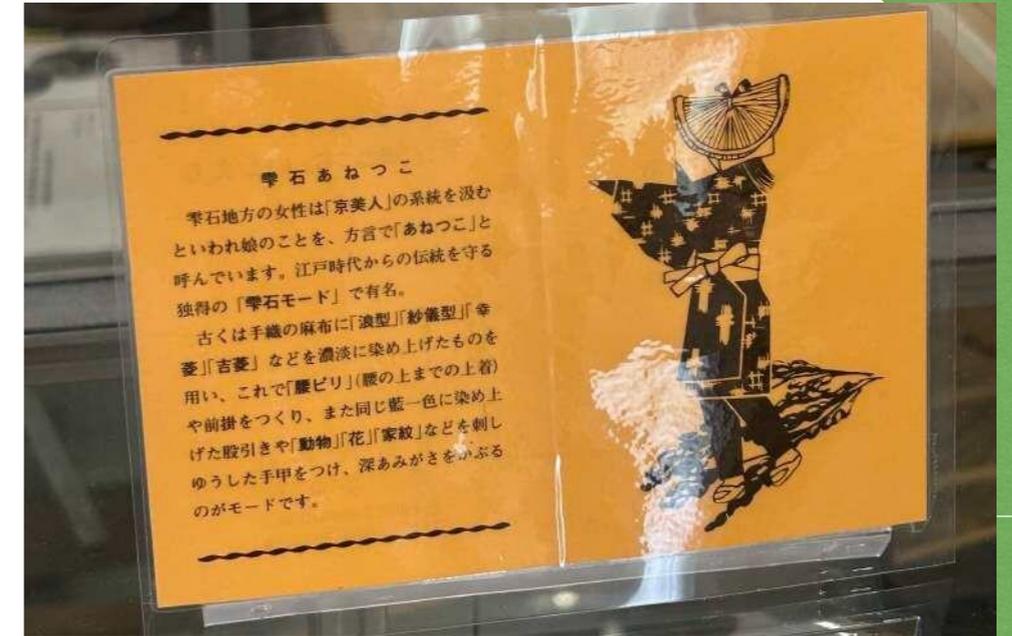
## 機能的+装飾美

### おしゃれな雫石あねっこ装束(野良着)

※野良着(のらぎ)とは、主に農村で田畑に出る際の「野良仕事」に着る、丈夫で動きやすい作業着のこと

雫石あねっこ=雫石地方の女性は「京美人」の系統を汲むといわれ娘のことを方言で「あねっこ」と呼んでいる。

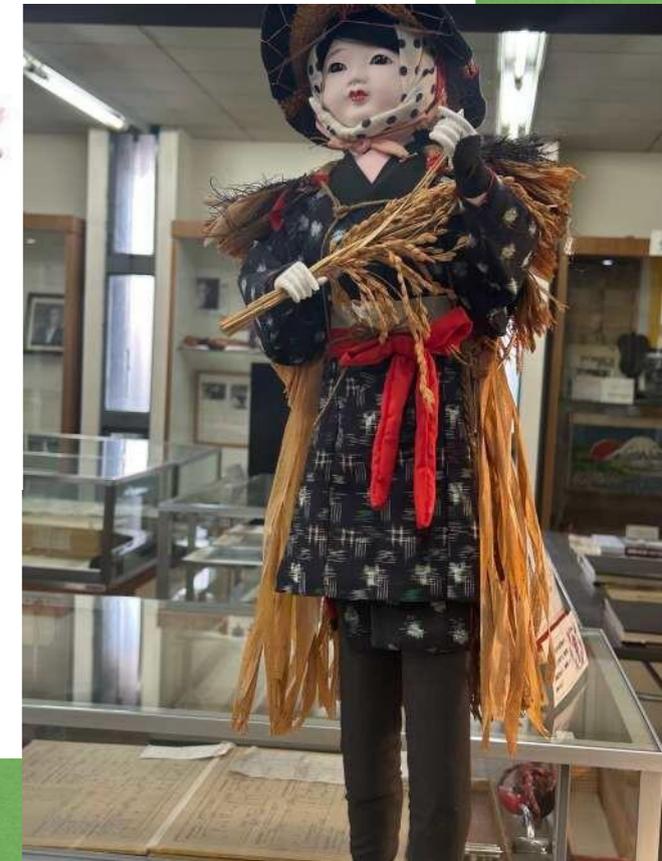
色系を使い分けた編笠や、「動物」「花」「家紋」など様々な装飾がされた手甲など、地域や家ごとに異なるあねっこ装束は、親から子へ受け継がれてきた。

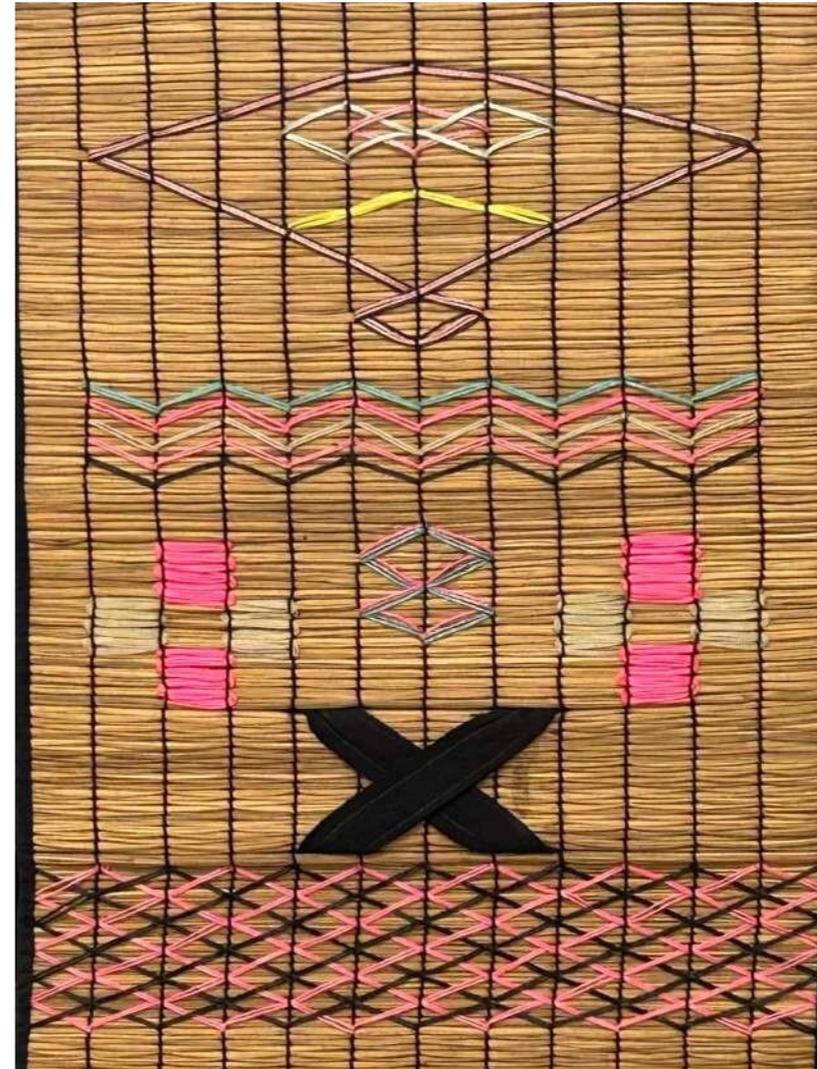


雫石あねっこ・雫石地方の女性は「京美人」系で、娘のことを方言で「あねっこ」と呼んでいる。手織りの麻布でつくった「簾ピリ」(腰の上までの上着)・前掛・股引き・手甲をつけ、編笠をかぶるのがそのモード



雫石町のイメージキャラクター  
しずくちゃん





ヒゴモ 背中に当たる夏の日差しを和らげる。

雫石歴史民俗資料館 館内展示品



雫石町選定保存技術 雫石亀甲織

所有/管理:しずくいし麻の会

亀甲織の  
民芸品



←雫石町総合芸術祭

「編笠」高橋勝三さん



↑はしばの文化祭「さをり織り」米田さん 2025年

さをり織りは今から50年前、城みさをさんという日本人女性によって生み出されました。

規則正しく織ることで繊細な模様を作り出すという従来のスタイルに囚われず、城さんは当時では「傷もの」と呼ばれる独特な模様やゆがみに

惹かれ、「差異を織る」という意味の『さをり織り』を考案しました。

KIKUKAWA

盛岡市先人記念館 第67回企画展

きっかわ やすまさ

# 吉川保正

美を求めるひと

2023 7/1(土) - 9/3(日)

開館時間 午前9時 - 午後5時まで(ただし入館は午後4時30分)

休館日 毎週月曜日(祝祭日の場合は翌平日)、毎月最終火曜日

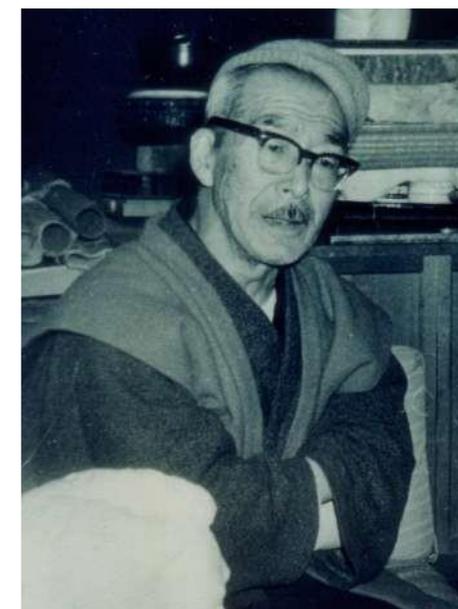
入館料 (個人) 一般300円 高校生200円 小・中学生100円  
 (団体) 一般240円 高校生160円 小・中学生 80円  
 ※団体料金は30名以上の団体に適用します。  
 ※盛岡市内に住所を有する65歳以上の方は入館料無料。

盛岡市先人記念館  
 盛岡市青森県公益社団法人盛岡市文化振興事業団  
 〒120-0966 岩手県盛岡市本町字船場敷2-2 TEL.019-699-3338

YASUMASA

吉川 保正(きっかわ やすまさ) 明治26年(1893)生 現在の岩手県宮古市

民藝運動の中心人物でもある柳宗悦(やなぎ むねよし)の東北の民芸調査に同行して岩手の美の発掘に尽くし、自身も彫刻・絵画などの作品を残した



1937(昭和12)年にパリ万博に出展されたテーブルセンターは、雫石町でマダ皮と絹で編まれたもので、その技術のすばらしさを評価され、銅賞を受賞しました。  
 ※オオバボダイジュやシナノキの樹皮(雫石地方ではマダと呼ばれる)

雫石町歴史民俗資料館に所蔵

## 厳しく寒い冬の暮らしの中で春 に思いを抱く極彩色



雫石町歴史民俗資料館に所蔵

## 花巻人形と雫石の民芸 郷土の色彩性について

### 化巻人形

岩手の2月はまだ雪の中、その頃になると、角巻に身ごしらえしたお婆さんが、ザルいっぱい「からげびな」を入れて売りに来たものである。

土地の人達は、花巻人形を「からげびな」と呼んで、厳しく長い冬の暮らしの中で、この獄彩色の土人形に春の想いを抱き、人形の売り声を待ち望んだものである。

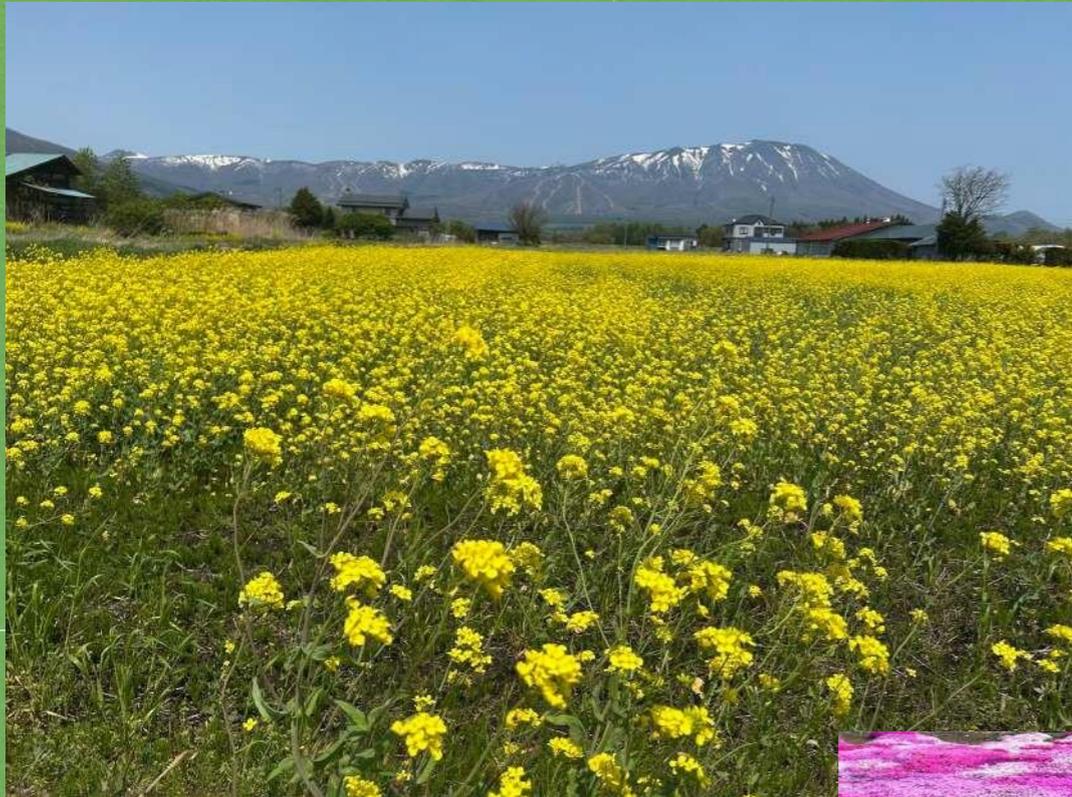
花巻人形は、今から250年前の享保年間（1716～1735）に、花巻鍛冶丁の太田善四郎が作り始めたと伝えられており、その源流は仙台の堤、京都の伏見人形までさかのぼるといふ。種類は、節句に飾る内裏びなをはじめ、天神、恵比須、大黒などの縁起物から金太郎、山姥、汐くみといった風俗物を含めて、1000とも1500ともいわれ、どの人形にも梅、桜、牡丹など春の花々が描かれている。

花巻人形が最も盛んに作られたのは天保年間（1830～1844）で、当時花巻には太田、苗代沢、古館、照井、上野といった人形づくりの店があり、賑わったという。

しかし、時代の変遷のなかで、「からげびな」は次々と姿を消していき、昭和34年、照井としを最後に花巻人形の系譜は途絶えてしまった。

近年になり、花巻の玩具製作者平賀孫左衛門の努力で、人形型の復刻が行われ市販されるようになった。

（高橋勇介）



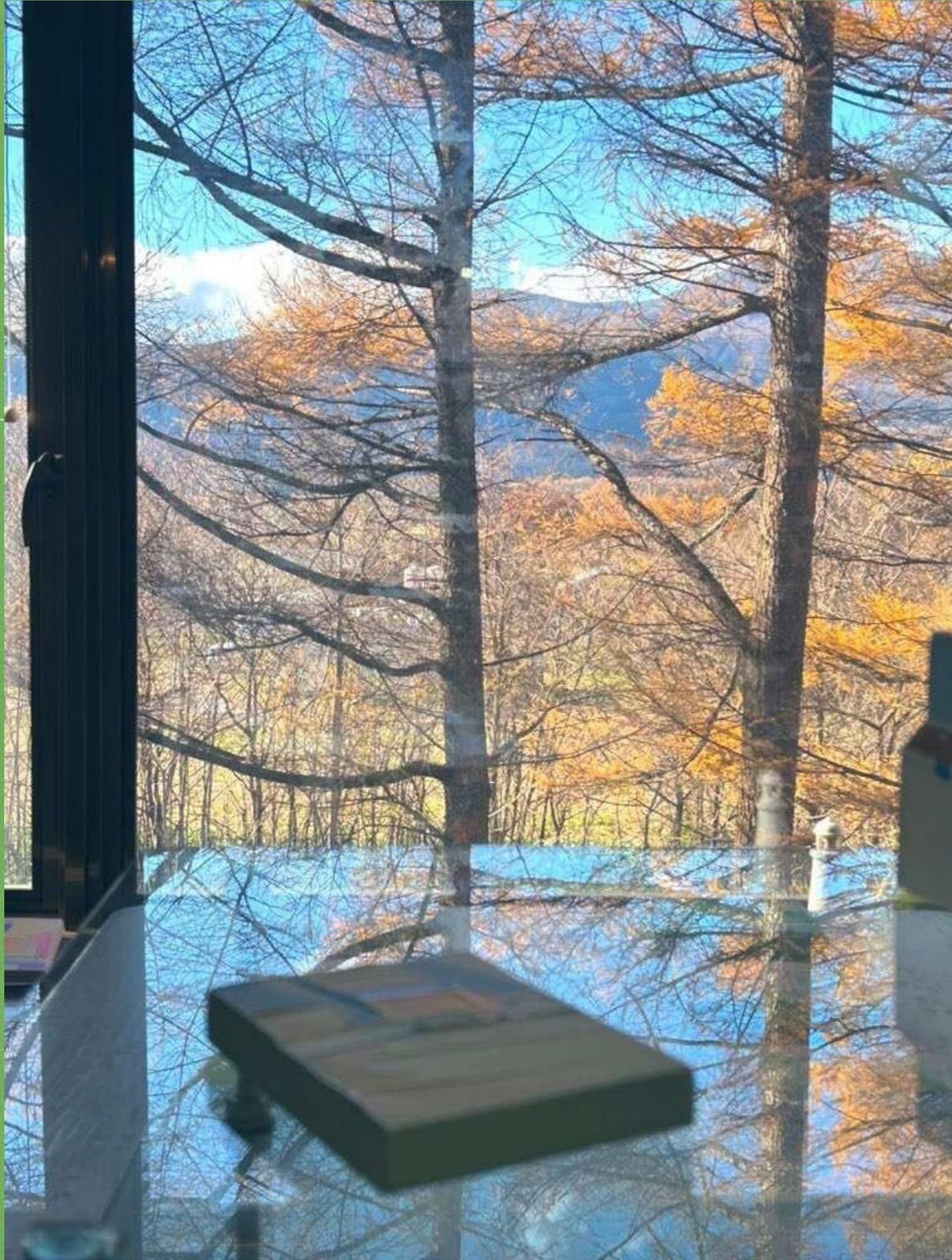
## むかしも今も

### 人がものをつくること＝生きること・暮らしを続ける方法の一つ

専門的な学習・鍛錬や訓練によって得られる知識や技術も大切だが、  
学校での学びの外にある、その土地の風土や暮らしから影響され、環境  
から受けとる色彩やかたちを織り込んで「ものをつくる」

(工芸・美術に限らず、日常の料理・DIYなども)

- 暮らしや環境、自分の外側にある世界(見たもの/触れたもの)からの結びつきを拾ってみる  
(木々や花・動物・野菜・畑や建物・空や山・・・その土地にしかない色/かたち/事象は、さまざま)



Min Saho toh-min studio

HOUSE SHIZUKUISHI

2F Art Work Room



## Herbal Tea Room

営業日：毎週 金～月 (年末年始休業を除く)

営業時間：10：00～16：00

Herbal Tea room直通：070-8323-9084

URL：<https://herbal-tea-room.square.site/>



## Art Work Room

営業日：不定休・いつでもご来館可

アーティスト不在の可能性もありますので

それぞれのSNSをご確認ください



## Relaxation room

営業日：要予約制

公式LINEよりお問い合わせください

<https://line.me/R/ti/p/@970wckwv>



## HOUSE SHIZUKUISHI

〒020-0585

岩手県岩手郡雫石町長山堀切野8-35

代表：019-691-2340 (流工房共通)



# HOUSE SHIZUKUISHI

岩手雫石にひっそりと佇む創造空間



@HOUSE\_SHIZUKUISHI



ご清聴  
ありがとうございました！

